

3. 次の文章は2006年11月1日付の朝日新聞掲載の天声人語である。これを読んで後の問いに答えなさい。

木々が色づき、風が日一日と冷たくなってきた。晩秋の時の流れは、一年でも特に早いと感じる。A、東京の都心で小さな発見をしたのは、先日のことだった。夜道で虫が鳴いていた。頭上から聞こえてくる。街路樹を見上げたが姿は見えない。虫の音は足元からと思っていたが、これは「アオマツムシ」だという。リーリーというB甲高い音色は車の音を押しのけるほど強く、しばしC足を止めて聴き入った。D虫の愛好家にとっては迷惑な虫らしい。「日本鳴く虫保存会」の小野公男会長は、鳴き声Eカンショウ会で「一種類でも覚えて帰って下さい」と言いづらくなった。強い音が他の虫の声をかき消すからだ。明治時代に東京で鳴き声が確認され、中国から輸入された木に付いてきたと伝えられる。「相手を知らない」と。松虫やカンタンを約50年育てる小野さんは、東京都小平市の自宅でアオマツムシも飼育する。体長2センチほどの緑色で、野鳥からも見えにくそうだ。飛べるうえ、太い枝や幹に産卵するので街路樹が枝切りされても影響は小さい。温暖化で、近年は北に勢力を伸ばしている。秋の虫が好きだった小泉八雲の言を、妻節子が記している。「あの小さい虫、よき音して、鳴いてくれました。私なんぼ喜びました。しかし、だんだん寒くなって来ました。知っていますか、知っていませんか、すぐに死なねばならぬということを……可哀相な虫」(『小泉八雲作品集』恒文社)。八雲が聞いたのは、古来の松虫だった。Fあの都心のアオマツムシの音も、10月末には消えていた。

問1 空欄Aに当てはまる言葉として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号 13

- ① 秋の香      ② 秋の契り      ③ 秋の心
- ④ 秋の夕日      ⑤ 秋の夜長

問2 下線部Bの語の意味として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号 14

- ① おおらかな      ② 気高い      ③ 高く鋭い
- ④ 大きな      ⑤ 遠くまで届く

問3 下線部Cの説明として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号 15

- ① 歩くのをやめて虫の音にじっと耳を傾けた
- ② 虫の音の聞こえる場所に入って虫の音をじっと聞いた
- ③ わざわざ出向いて我を忘れて虫の音を聞いた
- ④ 思うように足を動かさずに虫の音にひたった
- ⑤ 外出を禁じられて虫の音を熱心に聞いた

問4 下線部Dとはどういうことか。その説明として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号 16

- ① アオマツムシの大きな鳴き声で他の虫の声が聞こえないこと
- ② アオマツムシの繁殖が生態系を破壊してしまったこと
- ③ アオマツムシの鳴き声が日本の虫の声を覚えてしまったこと
- ④ アオマツムシの繁殖力は他の虫を大きくしのいでいること
- ⑤ アオマツムシの鳴き声が松虫やカンタンの鳴き声に似ていること

問5 下線部Eのカタカナに当てはまる漢字として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号 17

- ① 観賞      ② 鑑賞      ③ 観照      ④ 感傷      ⑤ 勸賞

問6 下線部Fとはどういうことか。その説明として最も適当なものを、①～⑤のうちから一つ選びなさい。 解答番号 18

- ① 都会にのさばっていたアオマツムシも寿命があり、秋の終わりには人々の記憶から消え去った
- ② 都会に生息していたアオマツムシも寿命があり、他の虫には幾分遅れてではあるが死を迎えた
- ③ 都会に根付いていたアオマツムシも秋の虫であり、冬の到来を間近にして冬ごもりの準備をしていた
- ④ 都会で我が物顔をしていたアオマツムシも秋の虫であり、秋の終わりには短い命を閉じてしまった
- ⑤ 都会を好んでいたアオマツムシも秋の虫であり、暖かさを求めて次第に日本列島を南下していった